

議 事 録

- 1 会議の名称 平成 26 年度第 1 回水戸市都市交通戦略会議利用促進部会
- 2 開催日時 平成 26 年 11 月 17 日（月） 午後 1 時 00 分から午後 3 時 00 分まで
- 3 開催場所 水戸市役所本庁舎南側臨時庁舎 2 階 大会議室
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員
(名簿順) 茨城大学工学部都市システム工学科 熊澤 貴之
東日本旅客鉄道(株)水戸支社総務部企画室 小澤 弘勝
鹿島臨海鉄道(株) 小貫 正博
茨城交通(株) 飛田 潔
関東鉄道(株)水戸営業所 廣瀬 貢司
関鉄グリーンバス(株) 長谷川 貞仁
ジェイアールバス関東(株)水戸支店 寺門 勉
(一社)茨城県バス協会 澤島 政志
(一社)茨城県ハイヤー・タクシー協会 鬼澤 秀通
水戸市住みよいまちづくり推進協議会 大関 茂
公募市民 米倉 彩乃
公募市民 根本 貴彬
公募市民 野原 香里
国土交通省関東運輸局茨城運輸支局 野上 雅嗣
茨城県企画部企画課 川上 敬一
水戸市長公室 武田 秀
水戸商工会議所 三上 靖彦
 - (2) 事務局 **【市長公室 地域振興課】**
技正兼課長補佐 太田 達彦, 副参事兼課長補佐 須藤 文彦,
地域開発係長 川俣 和彦, 地域開発係 主幹 村石 俊弘, 主事 森 敬之
- 5 会議次第
 - (1) 利用促進部会の設置
 - (2) 役員を選任
 - (3) 利用促進部会の検討施策
 - (4) 調査・研究
 - ア 公共交通ビジョン（案）の検討
 - イ 重点施策の抽出と検討

(5) その他

6 配布資料

(1) 平成 26 年度第 1 回水戸市都市交通戦略会議利用促進部会資料

7 内容

	<p>※設置後初めての会議となるため、事務局が進行を務めた。</p>
	<p>1 開 会</p>
事務局長代理	[開会のあいさつ、会議設置の趣旨等について説明]
事務局	[設置後初めての会議となるため、自己紹介]
事務局長代理	まず、本日の出席者数について事務局から報告させる。
事務局	本日は、定数 17 名中 17 名が出席である。
事務局長代理	事務局報告のとおり、過半数の出席であるため、水戸市都市交通戦略会議規約第 7 条第 2 項の規定を準用し、本会議は成立している。 次に、会議の内容について、冒頭から終了時まで公開としてよいか。
委員	「異議なしの声」
事務局長代理	本会議は公開とする。 本日の会議録については、公開前に各部会員宛て送付のうえご確認いただくこととする。
	<p>2 利用促進部会の設置</p>
事務局	[別紙資料 2～3 ページに基づき、設置根拠等について説明] [意見なし]
	<p>3 役員の選任</p>
事務局	[別紙資料 4 ページに基づき、役員の選任について説明]
委員	事務局に一任することとしたい。
事務局	事務局としては、_____様に部会長を、_____様に副部会長をお願いしたいと考えているがいかがか。 [異議なしの声]
	※水戸市都市交通戦略会議規約第 7 条第 1 項の規定を準用し、以後の会議の進行を部会長に交代した。

<p>部会長 事務局</p>	<p>4 利用促進部会の検討施策</p> <p>次第に沿って、4「利用促進部会の検討施策について」事務局から説明願う。</p> <p>[別紙資料4ページに基づき、利用促進部会の検討施策について説明]</p> <p>[意見なし]</p>
<p>部会長</p>	<p>5 調査・研究</p> <p>専門部会の調査・研究作業については、「公共交通ビジョン（案）の作成」と「重点施策の抽出及び事業計画の概要作成」となり、その結果を、年度末に開催予定である第3回全体会議に報告する。</p> <p>これを踏まえ、本日は、「公共交通ビジョン（案）の検討」及び「重点施策の抽出と検討」についての調査・研究を行っていくこととする。</p> <p>はじめに、「公共交通ビジョン（案）の検討」を行っていくが、まず事務局から「(1)-ア 公共交通の範囲」について説明願う。</p>
<p>事務局</p>	<p>[別紙資料6ページに基づき、公共交通の範囲について説明]</p> <p>【意見、質問等】</p>
<p>委員</p>	<p>第1回目ということなので、全体のスケジュールをお示しいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>今年度は、全体会議を3回開催する予定になっており、すでに第1回は7月、第2回は8月に開催し、専門部会である交通体系部会、利用促進部会の設置が決定したところである。また、第3回全体会議は、年度末に開催を予定しており、各専門部会の調査・研究事項を報告することとなる。</p> <p>利用促進部会の第1回目は、公共交通のビジョン（案）及び重点施策の抽出、事業計画の概要についての意見をいただきたい。第2回では第1回の内容を踏まえ、事務局で整理した内容を提示させていただき、第3回で部会として意見の取りまとめを行いたい。平成27年度策定作業を行う公共交通基本計画に盛り込むべき事項を専門部会で検討し、報告していただきたい。</p> <p>平成27年度のスケジュールは1年間で基本計画を定めていく。専門的な内容については専門部会でを行い、全体会議に報告していく方法をとりたい。</p> <p>また、平成28年度以降は事業の実施に取り組んでいくこととする。</p>
<p>委員</p>	<p>資料6ページの図における、議論の対象となる交通手段について、もう一度説明願いたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>利用促進部会でご検討していただくのは、公共交通のうち、福祉交通及び教育交通と重ならない部分とご理解いただければよいと考えている。水戸市都市交通戦略会議については、公共交通施策全体を協議する場としていきたいが、来年度策定する基本計画の中では、この部会で取り上げるものがない、道路計画なども含めて全体の計画を作り上げていきたいと思っている。</p>
<p>委員</p>	<p>この図では、公共交通と他の交通手段を意識して重ねているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>意識して重ねている。考え方によっては、乗合い型デマンドタクシーに関しても、利用者が市民に限らない場合もあると考えられる。例えば、観光客がすぐに乗ることができるような交通の仕組みを考える余地があるので意図的に重ねているが、今</p>

	<p>回議論していただきたいのは、鉄道、路線バス、タクシー、コミュニティサイクル、コミュニティバス等であることをご理解願いたい。</p>
委員	<p>福祉交通の中で、水戸市で運営しているものはあるのか。</p>
事務局	<p>福祉有償運送のみである。</p>
委員	<p>資料6 ページの図において、自家用自動車、自転車、徒歩は、公共交通と重なっていないが、これらを橋渡しするインターフェイスも議論の対象になっているのか。</p>
事務局	<p>その通りである。</p>
部会長	<p>続いて、「(1)-イ 公共交通ビジョン (案)」についての説明をお願いします。</p>
事務局	<p>[別紙資料6 ページに基づき、公共交通ビジョン (案) について説明]</p> <p>【意見、質問等】</p>
委員	<p>私の感覚では首をかしげる。たとえば、お出かけに使える、使いたくなると書いてあるが、そもそもまちなかに出かけたいところが少ない気がする。</p> <p>また、出かけたところに公共交通機関が通っているのかという疑問がある。たとえば、水戸市は七ツ洞公園を推しているが、土日祝日にはそこに向かう路線バスがないため、交通手段がなく、未だに訪れたことがない。</p> <p>水戸市都市交通戦略会議ではどのようなことを目標とするのか。CO₂の減少、コンパクトシティを目指す、車を使わないで健康になるなどが本当の目的であると考えている。</p> <p>公共交通が衰退していき、バス路線が少なくなってしまう状況は、県都とは思えない状況である。</p> <p>他の自治体で使用されているキャッチコピーとしては、「車をかしこく使う」、「乗って残そう」、「いつでも使おう」等があるがどうか。</p> <p>車を使わないでまちなかを回れるという魅力が水戸にあることをアピールすることで、観光客に、きちんと公共交通が整っているという印象を与えることにつながっているということになると考える。</p>
委員	<p>今のご意見で、いくつかの視点があると考えている。「車とかしこく付き合おう」とは利用者の視点あり、「きちんと公共交通が整っている」ことは、外へのアピールのフレーズになる。ビジョンを決めるにあたり、どちらの方向を向いているのが重要である。</p>
部会長	<p>生活の足としての視点と、外から来る観光客への対応としての視点は、切っても切れないような関係だと思う。</p> <p>他に質問はあるか。</p>
委員	<p>水戸市第6次総合計画では、人口減少時代に対応したコンパクトシティを目指したまちづくりを位置付けているので、車を使わず、コンパクトになったまちで楽しく買い物等ができることをイメージできるものがよいのではないかと。</p> <p>また、「使いたくなる公共交通」については、例えば、最新型のバスそのものが目玉になってしまうのではないかと。交通そのものが観光スポットになってしまうのではなく、交通は移動手段であり、そこへ行って、その場所で活動するイメージがよいのではないかと考える。</p>

委員	<p>公共交通ビジョンに具体的なものを盛り込みすぎるのはどうかと考える。 コンパクトシティ等の文言まで入れる必要はないと考えるが、事務局はどのような考えか。</p>
事務局	<p>水戸市第6次総合計画で掲げた都市空間整備の基本的方向である「魅力・活力集積型スマートエコシティ」を前提として、公共交通が果たすべき役割、目指すべき姿ということで、ビジョンを事務局案として提示した。 事務局（案1）では、七ツ洞公園に行けない状況に対応することは、ステージ①に該当する。使いやすい公共交通体系が整い、かつ、魅力的な乗り物が導入されれば、使いたくなるというステージ②になると考える。 行きたいところがないという指摘については、移動しやすい環境を整えば、新しいまちづくりがはじまるという見方もあり得る。まちを公共交通で支えていくという視点も重要ではないか。公共交通とまちづくりの連携のなかで、出かけたくなるステージ③の状況を作り出していくということも考えられる。</p>
部会長	<p>公共交通ビジョンに、言葉だけではなく、言葉とそれを説明するものがあってもよいのか。</p>
事務局	<p>文章に力があれば、市民にイメージが伝えられると考える。 今後検討していきたい。</p>
委員	<p>公共交通は、「便利であるので使う」、「便利でなくても使う」という2面性がある。また、後者については、便利でなくても「カッコいい」ので使うといった性格があると思う。便利だけの観点からみるのではなく、全体の価値観を揺さぶるような「カッコいい」視点もビジョンに含まれるとよいのではないか。</p>
部会長	<p>たとえば、「健康」のような、価値観を便利だけでない尺度でみてもらえるような、価値観を揺るがすような言葉が入っていると、全体の大きな価値観を揺さぶるようでいいのではないかという意見である。 他に意見がなければ、資料7から9ページまで、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>[別紙資料7から9ページ 「重点施策の抽出と検討」について説明] 【意見、質疑等】</p>
委員	<p>施策の具体例に、「新たな交通システムの導入」とあり、新たなものが導入されれば、公共交通に対するイメージの改善につながると思うが、事務局としては、L R Tのような交通システムの導入を考えているのか。</p>
事務局	<p>現在のところ、既存の資源である鉄道、バス、タクシーを中心に考えている。 既存の路線、車両、運転手等を地域資源と捉え、どのように適正に再配分していくかについて一義的に考えていきたい。</p>
委員	<p>住んでいる人にわかりづらい公共交通は、外から来た人には更にわからないものであることから、わかりやすくすることは重要であると考えます。 例えば、水戸駅の改札を出て路線バスに乗ろうとしたとき、北口、南口のどちらに向かったらよいかもわからない。 人の動線上に案内板等を設置して、わかりやすいものにしていただきたい。</p>
部会長	<p>わかりやすくするということが重要である。</p>

	別紙資料7ページについて、他に意見はないか。
委員	商店街とバス事業者が連携して、路線バス運賃等の一部助成を行うことについて考えていただきたい。
委員	共通乗車券の導入に茨城県ハイヤー・タクシー協会が事業主体として加わっているが、事務局は、どのような事業を考えているのか。
事務局	観光客の利用促進という観点から事業主体に加えさせていただいた。 路線バスからタクシーに乗り換える際に割引となる制度の創設を検討するなど、タクシーを公共交通体系の一つとして組み込んだ際の一例として挙げさせていただいた。 なお、事務局案は、全国の事例を参考として種々の施策を提案しているが、事業推進上の課題について事業者側からご教示いただき、検討を継続していく施策を精査していきたいと考えている。
委員	水戸市内のタクシー事業者は、水戸市内の観光地を半額で周遊するサービスを行っている。 一方、事務局案のバスからタクシーの乗継については、バスとタクシーの運賃体系が全く違うので難しいと考える。
部会長	共通乗車券の導入について、バス事業者からの意見はあるか。
委員	現在、水戸駅北口～大工町間及び県庁シャトルバスで導入しているが、利用者は減少傾向である。
委員	他社への乗継ぎをした場合とはどのようなイメージか。
事務局	例えば、A社のバスで水戸駅南口まで来て、駅北口からB社のバスに乗り換えた場合に、初乗り運賃の割引が受けられるようなものを想定している。
委員	複数のバス会社となると、運賃の設定等が様々なので精算方法が難しい。
事務局	現在も、自動車が運転できない大学生等は、学校へ向かうために路線バスの乗換えをしなければならない場合があると聞いている。そのような学生の負担を軽減させるものがあれば、将来社会人になって路線バスを利用する時に抵抗も少なくなるのではという考えがある。
委員	共通乗車券は理想的なものであるが、精算の場面ではかなりの課題が発生すると考えられる。 また、これらの施策に関しては、利便性が向上するものがほとんどだが、費用がかかるものばかりである。市として、補助等を考えているのか。 八戸市の表示については、わかりやすいと思うが、今あるものを全て変更しようとする、多くの費用がかかる。事業者だけでの変更を行うのは難しい。
事務局	平成28年度から事業を実施していくことになるが、水戸市都市交通戦略会議が事業主体となり、事業効果が高いものから順に、国の助成制度が活用できるものは最大限活用して、事業を行うということになる。国の助成制度を活用するには、計画に位置付けることが必要なので、そのような観点でご議論いただきたい。
委員	国の補助制度として、バリアフリーに関する整備や施設の改修に関する助成制度

委員	<p>等があるが、申請件数によっては、申請額の満額が交付されないこともある。</p> <p>ビジョンのところで「べんり」、「かつこいい」の観点から話をしたが、これまでの施策の話では、ほとんどが「べんり」の視点からである。「べんり」を追求すると事業者は費用や時間がかかって大変であるので、「かつこいい」の部分（施策の柱3，4番）に半分でもいいので力を注いでもよいのではないかと。</p>
部会長	<p>イメージを変える例としては、コミュニティサイクルがある。ヨーロッパではコミュニティサイクルの拠点数が増えており、1年間で2倍くらい増えている。「かつこいい」事例の一つとして、コミュニティサイクルの社会実験をしているところもある。</p> <p>次に、インフォメーション施設の整備について意見はあるか。</p>
委員	<p>昔、水戸駅前に、ボタンを押すと行き先を示す表示機があったが、なぜ撤去されたのか。</p>
委員	<p>全国的に普及が進んだが、費用がかかり、使い勝手が悪く、系統に変更があった際の対応等、維持管理に手間がかかることから撤去するケースが多く、水戸駅も撤去した。</p> <p>現在、水戸駅改札口を出てから、バス乗り場までの道順がわかりにくいという事実がある。</p> <p>現在、水戸駅の南口で、乗車券売場と案内所を兼務したバス待合所の整備検討が始まっており、このバス待合所までの案内をインフォメーション施設の整備にいれるべきであると考えている。その際は、茨城県バス協会の交付金の活用を検討すべきである。</p> <p>また、別紙資料8ページのバス停留所の改善について、バス事業者が自分のエリアの中で優先準備をつけてバス停留所の整備をしている。バス事業者の整備に、茨城県バス協会がどのように協力できるのかが課題である。</p>
部会長	<p>バス停留所の見直しの話があったが、バス停留所に広告を載せ、その広告費によって建設費と管理費を賄う事例がある。</p> <p>バス停留所の整備と共通サインシステムで足並みをそろえ、利用者にとってわかりやすい情報提供を進めていくことも重要だと考えるが、これについてはいかがか。</p>
委員	<p>「使いやすい」とは「わかりやすい」ということでよいと思うが、水戸駅からの系統数がかかなり多いと、わかりやすくするのが大変である。現在のように、水戸駅から何十系統も出ていると、色分けをしても最初からわからないのではないかと。</p> <p>わかりやすくなるというのは、バス事業者だけで考えるより、このような場で様々な意見を出していただくことで、さらに良くなるのではないかと期待している。</p>
委員	<p>バス停留所の見直しは、水戸市内の全てのバス停留所が対象なのか。</p>
部会長	<p>最初から全てのバス停留所を対象とするのではなく、中心部から範囲を広げていくという考えである。</p> <p>同時に、もう一つの部会では、路線バスの系統をどのように再編していくか議論を進めることとしており、路線バス系統の再編と、わかりやすく情報を伝えるという利用促進を一体的に考えていくことが必要ではないかと考える。</p>
委員	<p>バス停留所の調整について、バス事業者間が足並みをそろえて事業を実施してい</p>

	<p>くことに課題はあるか。</p>
委員	<p>特にない。 わかりづらいと意見があった、同一の場所において名称が違うバス停留所は、数が少ないため整備に係る費用負担も少額である。</p>
委員	<p>費用の面以外に、共通サインシステムの導入に関してはどう考えるのか。</p>
委員	<p>系統番号については、統一性に欠けているため、見直しを行いたいという気持ちはあった。 今後、皆様の意見をいただいきたい。</p>
委員	<p>3つの意見がある。 1点目は、「インフォメーション施設の整備」に関連して、各バス事業者間でお互いの系統について協議しているのか、把握しているのか疑問である。また、電話で系統等を尋ねる人も多いと思うので、専用のコールセンター等を設置してみるのはいかがでしょうか。 2点目は、モビリティマネジメントに関して、あるバス停留所の周辺に住んでいる人たちにそのバス停留所の時刻表を配布するような、個々に対応した施策を行うと効果的であると思う。 3点目は、「かっこいいという理由で公共交通に乗る」という観点で施策を検討すれば、施策「デザイン性の高いラッピングバス車両の導入」について検討していくべきだが、これは人によって捉え方が違うので、難しいのではないかと。</p>
部会長	<p>都市の景観において、ラッピングバスは影響が大きいため、デザインの審議会を開いて質の向上を図っている自治体が増加している。 広告物の質が向上し、バスに対するイメージも良くなることはあると考える。 バスのイメージを考えていくということで、モビリティマネジメントは重要である。 社会実験を行って、乗る人の気持ちを抽出する方法もある。 また、コミュニティサイクルで拠点を作り、広げていくには、短期的に実験を行っていく部分と長期的に変えていく部分と両方行っていければよい。</p>
委員	<p>事業者において高齢者向けの定期券を出しているが、その売り上げ状況はどうか。</p>
委員	<p>高齢者用定期券は、年々購入される方が増加しており、水戸市内の移動で利用される方が多い。一度定年退職した方が、再任用され、通勤に使っているのではないかと考えている。 また、事務局にお聞きするが、施策「高齢者等の外出に関する支援」の補助制度の検討とは、どのような施策をイメージしているか。</p>
事務局	<p>本市高齢福祉課において高齢者に対するアンケート調査を行っており、現在はその結果のとりまとめ作業中であると聞いている。そのアンケート調査においては、交通に関する質問項目もあることから、調査結果を提供していただき、高齢者のニーズを把握した後に制度の設計を行っていきたくと考えている。 制度設計まで時間をいただきたい。 しかし、高齢者等の外出に関する支援は必要であることから、公共交通基本計画に施策を位置付け、取り組まなければならない。</p>
部会長	<p>他にご意見はあるか。</p>

委員	今後も、議論は、水戸駅を中心に考えるのか。
事務局	乗換えを前提としたネットワークを考えたときに、水戸駅だけでなく、鉄道駅は全て結節点となる可能性があると考えます。
委員	公共交通が自家用車よりも良い面をアピールしていくことが重要である。交通事業者に施策を行っていただくことが中心となると考えるが、皆と一緒に考えていくことが重要である。
委員	内原地区では、通勤・通学は鉄道利用者が中心である。路線バスの利用者は少ないが、路線バスの運行本数が少ないため、自家用車が中心となっていると考えます。
部会長	次回も引き続き、この点について考えていきたい。 今後は、事務局と事業者が協議を行い、次の利用促進部会を開催することとした。 進行を事務局にお返す。
事務局	6 閉 会 以上で第1回利用促進部会を終了する。 第2回利用促進部会は、来年1月を予定しているので、よろしくお願いいたします。